様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	人間形成コース／皆川　直凡

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

中央教育審議会答申が求める，教員として必要な資質能力は，教育者としての人間性，協働力，生徒指導力，授業実践力の4つの資質能力に集約され，教員志望の学生ががこれらを総合的に身につけるためには，自らの思考や行動を常に顧みる自己省察力が欠かせないと考えられる。本申告者は，学部ならびに大学院において複数の学年の授業を担当しているが，それぞれの担当科目において，このことをふまえて授業を構成し，評価を行うことをめざす。具体的には，①学年の進行に応じて上述の4つの資質能力の統合・形成に向かうことを可能にする到達目標を設定し，それにふさわしい授業内容とする。②各授業の各時間において到達目標に対応した作業課題を設定し，授業内外で実施するとともに，授業の中に適宜，班学習や討論等を取り入れ，学生が個々の責任を果たし，仲間と協力して課題に取り組めるようにする。学生に自らの学びの軌跡をたどるポートフォリオを作成させ，自己省察をとおして資質能力の向上を図ることができるようにする。③授業への取り組みの姿勢，作業課題の遂行度，ポートフォリオの内容などを総合して，4つの資質能力の統合・形成度を学年の進行に応じて評価する。

2．点検・評価

本年度に担当したすべての授業科目において，年度目標に記載したとおりの理念と方法によって授業を構成し，各学生のパフォーマンスに対応した成績評価を行った。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

授業担当者としては，学生が主体的に授業に取り組めるよう，自学自習の機会を増やし，班学習，討論等も取り入れる。複数の教員で担当している科目において講義内容の関連づけができるよう図ってきた連携をさらに強める。研究指導教員としては，学生の関心と能力の把握に努め，彼らが質の高い課題研究を行うことができるよう，計画的に指導・支援していく。教員採用試験や臨床発達心理士等の資格取得についても積極的に支援する。必要に応じて個別面談や補習も行う。ゼミでの協同的活動を随時企画し，互いに支え合う中で生活が健全なものになるよう支援する。

2．点検・評価

あらゆる局面において，年度目標に記載したとおり実行した。さらに，年度目標に記載していなかった成果も得た。学部においてクラス担当教員を務め，4年次に教職実践演習を担当した学年が卒業期を迎え，学生2名が徳島県教員採用試験に現役合格した。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

日本の伝統文化（俳句，絵本，四国遍路など）に対する認識の深化と発達の過程に関する研究を中心に据え，人間の五感に基づく認知機能とそれを基盤とするコミュニケーション機能（感情の認知・表出・制御を含む）について，実証的方法を用いて探究する。その成果を基盤として「知性と感性を結び，発達を導く教育」を構想し，実践する。前年度の研究成果を基礎系と応用系，それぞれ一つ以上の心理学会において発表する。さらに，2本以上の学術論文の執筆と投稿を行う。

2．点検・評価

年度目標に記載したことをすべて実行した。さらに，年度目標に記載していなかった成果も得た。学会発表では，自らの発表に加え，連合大学院の研究生，大学院修了生，各1名の連名発表者（第2著者）にもなるとともに，他大学の教員が企画したシンポジウムにゲストスピーカーとして招かれた。2月には，本学学術研究会において，本学附属小学校ならびに公立小・中学校教諭，および他大学教員との共同研究の成果を口頭発表した。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

任期途中である委員としての職務をまっとうするとともに，新たに1つ以上の委員等にも就任する。特に，教職実践演習実行委員会委員長として，開設年度を迎えた「教職実践演習」の説明会を開催するとともに，授業内容の充実に努める。また，当該年度に大学院に入学する長期履修学生を対象として，教職実践演習とその履修に必要な学修キャリアノートの説明を行い，受講動機や記入動機を向上させる。さらに，本学の教員，コースの教員，および就任した委員会のメンバーとして各種会議に出席するとともに，応分の役割を遂行する。

2．点検・評価

年度目標に記載したことをすべて実行した。さらに，年度目標に記載していなかった成果も得た。社会連携課からの要請に応じて鳴門市学園都市化構想にかかる研究に応募し，3月上旬に，鳴門町内の中学校，小学校，各1校に出向いて，次年度における研究協力の協議を進めた。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

本学教育支援講師・アドバイザーに登録するとともに，各方面からの要請に応じ，附属学校，公立学校等に出向いて指導・助言を行う（前期・後期各3回を目標とする）。また，大学院修了生の教育研究活動に対する助言・指導を行うとともに，共同研究を行う（年間6回程度，協議の場を設けることをめざす）。他大学の教員や企業の研究所員との共同研究を継続・発展させ，その成果を社会に還元する。さらに，県立図書館協議会委員としての職務を遂行する。心理学の専門家として，定時制の看護学校の講師を務め，働きながら正看護師の資格取得を目指している人たちの指導・支援を行う。

2．点検・評価

年度目標に記載したことをすべて実行し，さらにそれ以上のことを遂行した。年度目標を越えて実行したこと（4項目）を以下に示す。①附属小学校の校内研修会で8回講師を務めた（年度目標6回）。②本学大学院修了生の教育研究活動に対する助言・指導および共同研究については，年間目標6回程度に対し30回を越える協議を重ね，3月には全国レベルの学会において共同研究を2本発表した（本学研究紀要にも論文が掲載された）。③上記とは別の本学大学院修了生（現・兵庫県公立中学校教員）が連合大学院博士課程に，本申告者を主指導教員として入学し，着実に研究成果をあげている。④上記2名とは別の本学大学院修了生（現・私立大学の教員）を連合大学院の研究生として受け入れて指導し，その学生が本年2月の入学試験に合格し，3月には全国レベルの学会において研究発表をおこなった。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

下記の5点は，本学への特記すべき総合的貢献であるといえる。①附属小学校教諭との教育・研究両面における協力体制を大きく進展させたこと（研究の項に記載した学術論文には，その成果物が含まれている。学術研究会においても，成果発表をおこなった）。②四国遍路という地域文化について体験的に理解させることを通して人間力の育成を図るという本学の特徴的科目を複数コースの教員との協同体制のもとで担当し，体験的理解を深め他者と共有する手段として俳句の創作を指導したこと（研究の項に記載した学術論文には，その成果物が含まれている）。③本学修士課程修了生の指導に力を入れ，1名を連合大学院博士課程の正規学生として指導していることに加え，別の1名を連合大学院研究生として指導し博士課程の入学試験に合格させたこと。④入試広報に努め，所属する人間形成コースが定員充足を果たしたこと。⑤学部においてクラス担当教員を務め，4年次に教職実践演習を担当した学年が卒業期を迎え，学生2名が徳島県教員採用試験に現役合格したこと。